令和６年度第４回 川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会

次　　第

日時：令和７年３月２４日（月）　午後２時００分～
会場：川崎市青少年科学館　自然学習棟２階　学習室

１　開会

２　館長挨拶

３　議題
　令和６年度事業評価について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　資料１

４　報告事項
　（１）第３回専門部会（視察）実施報告について　・・・・・・・・・　資料２
　（２）その他

５　閉会

川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会　委員名簿

任期：令和６年５月１日から令和８年４月３０日まで

		氏　　名	役職等
１号	教育職員	菅原　隆宏	稗原小学校　校長
		高橋　泉	王禅寺中央中学校　校長
２号	社会教育関係		欠　　員
３号	公募市民	南條　邦子	
		間渕　秀和	
４号	学識経験者	佐藤　武宏	県立生命の星・地球博物館　学芸部長 （貝類学・甲殻類学・機能形態学）
		山岡　　均	国立天文台天文情報センター 広報室長／准教授 （天文学）
		常喜　　豊	昭和女子大学名誉教授 （動物生態学）
		栗芝　正臣	専修大学ネットワーク情報学部　准教授 （デザイン学）
５号	家庭教育関係	眞壁　総子	特定非営利活動法人 ままとんきっず　理事長

令和6年度　川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）　事業進行管理・評価表

資料１

川崎市青少年科学館進行管理・評価の概要と目的

川崎市青少年科学館（以下、「科学館」と言う。）は、川崎市青少年科学館運営基本計画（以下、「運営基本計画」と言う。）に基づき、運営基本計画で定めた科学館の理念を達成するために進行管理・評価を行い、課題や成果の共有と、組織的・継続的な改善を進めます。また、評価の公表によって事業の客観性・透明性を確保し、市民・利用者への説明責任を果たします。

※自己評価は2月末時点のものになっています。

科学館の評価体制

科学館では、進行管理・評価の導入にあたり、館職員による自己評価と青少年科学館専門部会（以下、「専門部会」）による評価を併用します。

科学館が自ら目標を設定し、達成状況について分析して、成果と課題を明らかにするとともに、その妥当性を専門部会による客観的な視点から検証し、事業や運営に関しての具体的な改善方策などの助言を受けます。

※これまでの「青少年科学館協議会」は、川崎市の全庁的な附属機関の見直しに伴い、平成28年度から「川崎市社会教育委員会議」の「専門部会」に位置づけられました。

評価区分

以下の通り、達成度区分・評価区分を設けます。

＜達成度区分＞　（自己評価）

区分	内容
5	目標を大きく上回って達成 ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
4	目標を上回って達成 ・目標に明記した期日通り達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	目標をほぼ達成 ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し、業務遂行に支障がなかった。
2	目標を下回った ・目標に明記した内容・期日のいずれかが達成されなかった。 ・目標に明記した数値を下回った。
1	目標を大きく下回った ・目標に明記した内容・期日のいずれも達成されなかった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

＜評価区分＞　（専門部会評価）

区分	内容
A	目標に向かって順調に課題解決が図られているもの ●目標の実現を阻害するような新たな課題や残された課題等はなく、目標に向かって順調に進捗している場合
B	目標に向かって一定の成果が上がっているもの ●新たな課題や残された課題等があるが、目標の実現に向けて今後も現在の取組を継続していくことで対応できる場合
C	課題解決が不十分で取組の改善が必要なもの ●新たな課題や残された課題等があり、目標の実現に向けて、計画の見直しや取り組みの改善が必要な場合
D	課題解決が図れていないため、抜本的な見直しが必要なもの ●前提としていた諸条件が大きく変化し、取り組み内容の抜本的な見直しを行わなければ目標の実現が困難な場合

川崎市青少年科学館　令和6年度事業評価一覧

（川崎市社会教育委員会議　青少年科学館専門部会）

項　目		達成度 自己評価	専門部会 総合評価
収集保存事業	自然	3	B
	天文	3	B
	科学	3	B
展示事業	自然	3	B
	天文	3	A
	科学	3	B
調査研究事業	自然	3	B
	天文	3	B
	科学	3	B
教育普及事業	自然	3	A
	天文	3	A
	科学	3	A
	出版事業	3	B
ネットワーク事業	展示・企画ネットワーク	4	A
	調査研究・収集保存ネットワーク	3	B
	学習支援ネットワーク	3	B
	地域振興・生田緑地内ネットワーク	4	A
管理運営	管理業務	3	B
	科学館の魅力を高めるサービス展開	3	B

１　収集保存事業

標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行い、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承します。
データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料の効果的な活用に努めます。

（１）自然

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎の自然についての資料収集と保存・管理	①収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化） ②GBIF等国内外機関への資料情報の提供	①資料収集として剥製及び標本化を行い、哺乳類10点、鳥類9点、昆虫900点(うち446点は職員採集)、植物646点、計1,565点を新規に作製した。また、電子台帳への登録について、昆虫標本は315点を登録し、すべて既存資料であり、植物標本は646点を登録し、すべて新規作製資料である。 　なお、昆虫標本の登録点数が昨年度より減少している理由は、昨年度は新規に作製した数年分の標本の同定が済み、まとめて登録できたこと、また既存資料も同定済みの資料であったことで登録がスムーズにできたためであり、一方で今年度に登録した既存資料は未同定の資料が多く、登録作業に時間を要したためである。 ②地球規模生物多様性情報機構（GBIF）およびサイエンスミュージアムネット（S-Net）に植物の標本データ1,150点を提供した。	未整理資料を計画的に整理･登録するとともに、継続的に新たな資料を作成する必要がある。	●忙しい業務と並行して多くの収集をされたと思う。 ●計画の達成に向けて着実に諸作業が進められている。地道な作業の積み重ねとなるが今後とも計画的な収集・保存・管理を進めていただきたい。 ●昨年度よりも数は減ったが、継続的に標本を作製し、電子台帳へ登録している点が評価に値する。未整理標本を計画的に整理、登録するよう、今後も努力を続けてほしい。 ●着実に進めている。 ●地道な作業であるが、根気強く続けてほしい。機会があれば昆虫標本の同定は手伝いたい。 ●標本作製や資料整理が着実に進められている点は評価できる。 ●毎年順調に整理・登録が進んでいると思う。 ●新規作成資料の多さは、次世代への継承につながると思う。
		達成度：３		評価：Ｂ

（2）天文

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○天文についての観測データの収集と保存・管理 ○プラネタリウムについての資料収集と保存・管理	①プラネタリウム番組のアーカイブ化 ②天文資料の整理保存	①毎月実施しているプラネタリウム一般向け番組の制作時に収集した文献資料、画像等の資料を番組素材、番組スクリプト、等の関連データとともにアーカイブとして保存し、今後の番組制作等に活かせるようにした。 ②天文学史資料の整理保管を継続して行い、冨田資料の目録の公開に向けて分類整理を進めている。また、太陽観測記録のデジタルアーカイブの作成に取組み、黒点スケッチ約400点のデジタル化を実施した。	資料の適切な分類整理と公開が今後の課題	●科学館の基本ともいえるプラネタリウムの素材は今後も生かしていくことのできる資料なのでぜひ次世代にもつなげられるデータとして生かしていただきたい。 ●番組制作関連資料や観測記録等のアーカイブ化が進捗されている。今後効果的な公開に向けての取り組みを期待する。 ●資料のアーカイブ化を進めている点は評価できる一方で、公開や利活用については課題のまま積み残されているように見受けられる。 ●収集したものの活用方法を具体化していってほしい。 ●デジタルアーカイブ化が着実に進んでいると感じる。 ●アーカイブ・デジタル化を着実に進めている点は評価できる。資料の有効活用を踏まえた上で、今後どのようにそのデータを活かしていくのか工程が提示できると良い。 ●アーカイブ化進めていることは評価できる。有効な活用方法を検討してほしい。 ●デジタルアーカイブを充実できたことは評価できる。
		達成度：３		評価：Ｂ

（3）科学

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○科学実験についての資料収集と保存・管理	①科学実験についての資料収集と保存・管理	①サイエンス教室、サイエンスワークショップ他、館内科学系イベントの提供された計画書や報告書の管理とともに、市民団体が普及イベントを計画する際の参考資料として共有できるように、令和６年度サイエンスワークショップ実践事例集（1月末時点で53件）として冊子データにまとめた。館内展示を踏まえた更新用の画像及び動画データを収集した。	実践事例集のさらなる活用に向け、市民団体への周知に取り組む必要がある。	●コンスタントにイベントを企画されていると思う。 ●広く共有できる実践事例集のまとめは有効と思われる。動画データを含めて広く活用できる方法を検討していただきたい。 ●ワークショップをデータベース化し、市民団体が共有できるようにまとめた点は素晴らしい。今後は有効に利活用できるよう取り組んでほしい。 ●動画などの公開を進めてほしい。 ●実践事例集の冊子化は評価できる。 ●活用できるように事例集としてまとめているのは評価できる。「令和6年度実践事例集」はどこでどのような手続きで閲覧可能なのかを明示すると良い。 ●冊子データにまとめたことは評価できる。動画データの有効活用を検討してほしい。 ●サイエンスワークショップ実践事例集として冊子データにまとめたことは、後進の参考となる。
		達成度：３		評価：Ｂ

２　展示事業

地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行います。
市民・利用者が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最近の研究成果などを反映した展示の更新を行います。
市民・利用者の疑問や興味関心にきめ細かに対応した展示解説を行い、自然や天文、科学技術等へのより深い理解と関心につなげます。

（１）自然

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎の自然を伝える展示と情報発信	①生田緑地の自然情報の発信 ②新たな自然史資料による常設展示の更新	①生田緑地の自然について、日常的に観察・撮影した写真等のリアルタイムな情報発信（受付横「緑地案内ボード（緑地マップ）」を活用）を定期的に実施し、2週に1回の頻度で更新した。また、SNSを活用し、自然情報や展示紹介など39回更新した。 ②生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真をキャプションとともに4回更新し、計32点を展示した。また、自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップ展示にて実物資料とともに展示し、適宜更新した。 また、5月10日の地質の日を記念して、昨年度、川崎市地域文化財に決定された「オシ沼切通し多摩ローム層模式露頭剥ぎ取り標本」の7点のうち1点を、5月19日に限定公開した。	自然情報を継続的に発信する必要がある。 また、展示物の更新にむけて、更新案を検討し、展示物を作製する必要がある。	●展示内容がより周知されるように幅広いSNSの活用を望む ●自然情報の展示や発信が継続的に行われている。 ●地域文化財を限定公開したことや、地質の日に関連づけたことは市民の印象にも残りやすいと思うし、広報上トピックスにもしやすいのでよい試みだったと思う。 ●記念日を活用した限定公開を実施したことは良い着眼点である。 ●展示において動植物の写真は来訪者の目を引く重要な要素なので、これからも積極的に更新してもらいたい。近隣の他の緑地や自然公園との比較を展示に取り入れても良いのではと思った。 ●情報発信を積極的に更新されている点は評価できる。実物資料を直接目にすることができるのが科学館の強みでもあるので、今後も実物資料などを有効利用してほしい。 ●生田「緑地の自然について定期的に更新し、継続的に発信し続けていることが評価できる。 ●生田緑地の四季だよりなど、大変興味深く見せていただいた。自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップ展示にて実物資料とともに展示は、大変参考になる。 ●自然情報の定期的な発信は評価できる。
		達成度：３		評価：Ｂ

（２）天文

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎方式のプラネタリウム投影 ○基礎的な内容から最新情報まで反映した天文展示	①プラネタリウム一般投影（一般投影番組制作含む） ②子ども向け投影（子ども向け番組制作含む） ③星空ゆうゆう散歩 ④ベビー＆キッズアワー ⑤プラネタリウム学習投影 ⑥星空自由空間（一般団体貸切利用） ⑦天文関連展示事業	①毎月テーマを変えた一般向け番組を企画、制作し、投影を実施した。 また、新たなフュージョン番組を制作し、３月に投影を開始した。 ②土日、祝日等に子ども向け投影を実施した。オーロラをテーマとした新番組を制作し、来年度から一般公開予定。 ③ベテラン解説員である元職員が講師を務める「星空ゆうゆう散歩」を8月を除く毎月実施し、多くの来場者を集めた。 ④乳幼児向けの「ベビー＆キッズアワー」を月1～2回実施した。 ⑤小中学校等の団体利用を受入れ、各学年や利用する学校の希望に応じた学習投影を実施した。 ⑥一般団体による貸切利用を受入れ、利用者の希望に合わせ、専門学校の交流行事、プラネタリウムでの音楽ライブ、聴覚障碍者向け字幕投影を実施した。 ⑦10月にオーロラ写真パネル展を実施した。また、出張企画展として本庁舎にて10月にオーロラ写真パネル展と3月に企画展「プラネタリウムの舞台裏」を開催した。 達成度：３	プラネタリウムのさらなる活用が課題	●フュージョン作品の新作が制作されたのはよかった。予算の設定もあると思うが新作はやはり興味を持って来館してもらえると思う。 ●様々な対象者に向けて様々な番組が企画され、工夫されて実施・投影されている。 ●多様な利用者向けの上映を実施している点が素晴らしい。聴覚しょうがい者向けの投影については、次年度以降も続けてほしい。 ●出張企画展など広く知られるための活動を評価する。また、太陽活動極大期に合わせたオーロラについての番組・展示など、時宜に適った工夫が見受けられる。 ●さまざまな年代に向けたプログラムが組まれている点が評価できる。 ●引き続き、子どもも大人も楽しめる企画を期待する。 ●毎月テーマを変え、企画、実施していていることは評価できる。貸切利用や出張企画をこれから増やしていってほしい。 ●プラネタリウムでは、様々な業種とのコラボレーション企画を推進していくと面白い。出張企画展として本庁舎で１０月にオーロラ写真パネル展と3月に企画展「プラネタリウムの舞台裏」を開催したことは、宣伝になった。 ●興味を惹かれる多彩なプログラムで実施していることは評価できる。 評価：Ａ

（３）科学

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○市民協働の科学工作展示	①市民協働の科学工作展示	①教育普及イベントにおいて制作した工作物の原理や作り方を紹介する常設展示コーナーの内容１点と科学館で活躍している科学市民団体を紹介するパネル等を更新した。展示手法として多摩区と連携したＡＲコンテンツ（拡張現実）では、工作物の動画を１点追加掲出した。今年度は62名82回の来館者利用があった（令和6年4月から令和7年1月）。来館者が科学工作の紹介を視聴できるデジタルサイネージの動画を１つ編集し、追加更新した。 達成度：３	今後も科学の楽しさへの興味を喚起していく必要がある。	●展示スペースに限りがあるので難しいとは思うが今後も利用者が利用しやすい環境を提案していってほしい ●ARコンテンツ、デジタルサイネージの活用が効果的に進められている。 ●一昨年より利用者が半減した昨年から、さらに利用者が減少したARコンテンツについて、何が要因、課題なのかを分析してほしい。 ●市民団体や区との協力・連携による活動が評価される。 ●デジタルサイネージの動画更新は評価できる。 ●ARコンテンツは昨年度と比較しても利用者が減少傾向にあるので、位置づけや活用方法などを再検討しても良いかもしれない。 ●気軽に視聴できるARコンテンツやデジタルサイネージの追加を継続してほしい。 ●３６０度カメラの画像をVRなどに取り込み、生田緑地探検ができると面白いと思う。 評価：Ｂ

＊アストロテラス：　市民が集い、スタッフと参加者が同じ星空を共有し、星空の美しさと宇宙の神秘を体験するための、観測機材を備えた天体観望用の施設

＊２１世紀子どもサイエンス事業：　川崎市で活動する民間団体・産業・学校と科学館が連携し、理科の好きな子どもや、科学に明るい市民を育てていく事業

＊ワクワクドキドキ玉手箱：　市民に科学の楽しさを伝えるための実験・観察の手引きや道具が詰まったツール

３　調査研究事業

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた南北に細長い地形であり、東京都との間には多摩川が流れています。市の北部では武蔵野の面影を残すような雑木林があり、自然が多く残っている地域と、南部の工場地帯をはじめとして都市化が進んだ地域があります。

このように、自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見いだし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行います。

また、科学教育を効果的に推進するために必要な調査研究を行います。

（１）自然

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎市域の生物調査 ○自然について市民の興味関心を高める調査研究の実施	①市域の生物調査 ②市民の興味関心を高める調査研究の実施	①市域の生物調査では、自然系市民団体への委託事業として、生田緑地を中心に川崎市域に生息する動植物種の確認調査を実施し、これまでの採集状況を踏まえながら採集が可能な動植物については採集し、それらに適した方法により標本を作製した。また継続的なモニタリングが可能な分類群については、モニタリング調査を継続した。 ②生田緑地の外来生物調査として、ムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの生息状況を継続調査し、調査結果をまとめ、紀要第35号で公表した。	今後、調査結果について市民への適正な還元方法を検討する必要がある。	●かなり対象が幅広いので難しいとは思うが、カマキリの研究は深めていってほしい。来年により期待する。 ●継続した調査・研究がおこなわれているが、今後の課題にもあるように調査結果の共有・公開方法の検討を期待したい。 ●調査を継続していくことは重要であるが、調査の結果について何らかのかたちで発出し、市民へ還元していくことが必要だと思う。 ●成果の公表方法に工夫してほしい。 ●ハラビロカマキリ2種の紀要での報告を評価する。 ●紀要第35号での公表は評価できるが、校正していないと思われる箇所が見受けられるので、外部の組織か館内の別委員などでチェックをしてもらう仕組みがあると良いのではないか。 ●継続して調査し結果をまとめているので、どのように市民に伝え関心を高めてもらえるかを検討してほしい。 ●生田緑地の外来生物調査として、ムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの生息状況を継続調査し、調査結果を積み重ねることは価値あることである。
		達成度：３		評価：Ｂ

（2）天文

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○天文現象についての調査研究の継続	①川崎市域の星の見え方調査 ②天体の観測	①夏季と冬季にデジカメを使った市民参加による市内での星の見え方調査を行った。夏はより多くの市民が関心を持ち、参加できるように、ひとつの星座で1～5等星が確認できるはくちょう座の肉眼での観察を実施した。報道発表等、広報の充実を図ることで昨年の約2倍となる80件のデータが集まり、地図情報システムの活用によって詳細な解析と結果の公表を行った。 ②太陽表面の観測を継続して行い、観測データの解析を行った。また、紫金山アトラス彗星や土星食、惑星の観測等を行った。 達成度：３	より多くの市民が参画できる調査手法と告知が課題	●なかなか公共施設では難しいのかもしれないが、市民参加のイベントなどはyoutube等で配信できると共感も得られて次回の告知にもつなげられるのでは。 ●集まったデータが2倍になるなど市民参加が拡がっている。調査・観測結果の公表方法の検討もお願いしたい。 ●昨年度はデータ収集のみに留まったが、今年度はデータを解析し、結果の公表まで漕ぎ着けたのは良かった。 ●市民参加が加速していくことを期待します。 ●調査結果の公表は評価できる。昨年も書いたが、春と秋の星の見え方調査は難しいでしょうか？　確かに夏と冬に比べてあまり面白くないけれど、この時期の観察も必要ではないかと思う。 ●より多くの市民が参加できたことは評価できる。さらなる参加が見込めるように今後も工夫を重ねてほしい。 ●より多くの市民の関心と参加を得られる広報の工夫を考えてほしい。 ●実際の天体に触れる良い取り組みであったと思う。 ●市民参加の調査は市民の関心を引き、広報の充実につながるので、継続してほしい。 評価：Ｂ

（3）科学

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○科学について市民の興味関心を高める調査研究の実施	①市民の興味関心を高める調査研究の実施	①科学館の学習支援として実施している地層解説及び地層貸出キットを元に、学校現場での授業活用や科学館利用をねらい、かわさきGIGAスクール構想で活用されている端末に対応したデジタル教材を作成するため、地層に関する書籍等を参考にしながら内容を精査しサイトを作成した。 達成度：３	学校現場の要望を聞き取りながら、デジタル教材を改良・開発していく必要がある。	●生徒が興味を持って学習できるようなサイトを期待する ●GIGA対応教材の整備が推進されている。一般市民が興味をもてる調査研究活動も期待したい。 ●学校教育を補完できるようなデジタル教材の開発をさらに続けてほしい。また、教材開発のノウハウや、教材のねらいなどをまとめて公表することも検討してみてはどうか。 ●学校現場の要望をくみ取る方策を具体化してほしい。 ●地層は好き嫌いが分かれやすい分野なので、多くの人が関心をもてるサイトの充実に期待する。 ●年報ではサイトを作成・公開したとなっており、ページの一部が図として掲載されているが、公開されていると思われるサイトが見当たらない。公開しているのであればわかりやすいように科学館webからリンクをはると良いと思われる。 ●引き続き、GIGA対応のサイトの充実を望みます ●非常に重要な取り組みであると思う。実際に授業で使用し、成果と課題を現場と共有していくことが大切である。 ●デジタル教材のサイトは評価できる。実物の活用が大切なので、より利用しやすい貸出方法についても検討していただきたい。 評価：Ｂ

４　教育普及事業
展示を活用した学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てます。

（１）自然

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○展示解説やワークショップ ○川崎市域での自然体験活動 ○学校支援 ○人材育成	①生田緑地観察会 ②サイエンス教室（自然分野） ③自然サポーター研修会 ④自然観察（地層・林） ⑤総合的な学習の時間支援	①生田緑地を会場に、種子植物、シダ植物、野鳥、昆虫、地層などをテーマに、現地で見られた動植物や自然環境について講師が解説することで、参加者の興味関心を持つきっかけとなる観察会を当日受付の形式で計17回開催し、参加者は延べ340人であった。あと3回実施予定。 ②来館者を対象に、動植物や自然環境に対する興味関心を深められるよう、座学と観察会で学ぶ教室や、より深く自然を理解するおしごと体験、博物館の役割を学ぶバックヤードツアー等、計9回を実施し、参加者は延べ132人であった。あと1回実施予定。 自然分野のサイエンスワークショップは計10回を実施し、参加者は延べ417人であった。あと2回実施予定。 ③自然や動植物に関心のある市民を対象に、川崎市域で自然調査や観察会を行う自然サポーター候補を募集し、養成する研修会を開催した。「市域の生物調査」、「生田緑地観察会」等で調査活動、来館者への解説等を行うボランティアを育成するため、自然調査や観察会に関する講義及び受講生が現地での指導方法を学ぶ場を設け、研修を実施し、研修会から9名の修了生を輩出した。 ④地層観察では、生田緑地で地層の成り立ちについて学習するプログラムを、計31回、延べ3,014人に対して実施した。あと2回実施予定。 また、教員の観察コースの事前下見・相談への対応、教員の事前学習、生田緑地での観察が困難な学校向けに地層の写真や地層サンプルをまとめた学習キットの貸出しを行い、市内学校7校が利用した。 林の観察では、生田緑地の樹林における季節ごとの動植物の観察を理科の学習の一環として、計1回、延べ97人に対して実施した。 ⑤生田緑地の自然等をテーマに、生活科・総合的な学習の時間として課題解決学習の支援を計1回、延べ6人に対して実施した。 達成度：３	野外活動において、夏季では熱中症対策を踏まえ対応する必要がある。	●観察会は開催準備が大変だと思うが館内スペースがかぎられているので、普段紹介できないものを見せることができる貴重な機会だと思う。あまり増えても困るのかもしれないが、生徒に自然に興味を持たせる機会として告知をもっとしてほしいと思う。 ●計画に沿った活動が着実に実施されているが、今後の課題は熱中症対策なのでしょうか。 ●限られた時間とマンパワーの中で、4,000人を超える利用者に対して教育普及活動を実施していることに、頭が下がる。養成したボランティアが調査研究や教育普及に関わる人材となり、事業がうまく結実していくことを期待したい。 ●参加者からのフィードバックを期待する。 ●多様なイベントを実施していることを評価する。今年度は言っておきながら何の協力もできなかったので、次年度は何らかの形で協力したい。 ●様々な自然観察会、サイエンス教室、研修会を実施し、多くの参加者を得られたことは高く評価できる。 ●継続して観察会などに多くの参加者を得ていることは評価できる ●様々な観察会やサイエンス教室等の体験活動を展開したことは評価できる。地層観察のキットについては、理科研究会で夏季研修会のおり、活用させていただき、教育現場で有効活用できることを知った教員は多かったと思う。来年度も活用し、広げていければと考える。 評価：Ａ

（２）天文

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○市民や児童生徒が参加できるプラネタリウム番組制作 ○プラネタリウムを活用した教室・講座の開催 ○プラネタリウムを活用した他分野との融合イベント ○アストロテラスでの天文体験 ○学校支援 ○人材育成	①アストロテラス公開 ②アストロテラス夜間一般公開 ③特別観望会 ④プラネタリウムワークショップ ⑤プラネタリウム発表会 ⑥天文講演会／天文講座 ⑦天文サポーター研修会 ⑧プラネタリウム　イベント投影 ⑨かわさき星空ウォッチング ⑩サイエンス教室（天文分野）	①平日昼間にアストロテラスを公開し、モニタ上での太陽観察を実施した。また月2回程度日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽の他、金星や1等星など昼間に見える明るい天体の観察会を2月までに9回実施し438人が参加した。 ②夜間の天体観察会として「アストロテラス夜間一般公開」を当日自由参加で開催し、2月までに6回実施し860人が参加。年度内にあと1回実施予定。 ③紫金山アトラス彗星の特別観望会を開催し、53人が参加した。 ④小学生を対象に年間を通じた連続講座「プラネタリウムワークショップ」を開催し、プラネタリウムの操作体験や番組制作を通じて天文学への知識を深め、関心を高めた。発表会を参加者の家族等の他、一般来館者に向けて実施する。 ⑤近隣の学校と連携した事業として日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブ生徒によるプラネタリウムの番組制作、投影発表会を実施した。 ⑥宇宙航空研究開発機構(JAXA)から講師を招き、太陽に関する講演会を開催し、65人が参加した。 ⑦「アストロテラス夜間一般公開」等を協働で実施する天文サポーターの資質向上のため定期的に研修を実施し、学習会、天体観測の実習などを行った他、「アストロテラス夜間一般公開」参加者への配布資料の作成を毎月行い、天体観察会を充実させた。また、天文サポーター研修会を実施してサポーターの新規募集を行い10人が参加した。 ⑧東京交響楽団とのコラボレーションによるプラネタリウムコンサートと、ドーム映像を活用したオーロラ上映会を開催し多くの方が来場した。アンケートからはいずれも高い満足度が得られた。 また、仙台市天文台制作の震災特別番組の上映会を3月に実施した。 ⑨学校等の依頼を受けてアストロカーによる出張観望会を2月までに20回実施し、延べ約1,800人が参加した。 ⑩日時計の工作や夜間の天体観察、プラネタリウムバックヤードツアーなど天文分野のサイエンス教室を年間で8回開催、延べ147人が参加した。 達成度：３	SNS等を活用したオンラインの教育普及事業の充実が課題	●アストロテラスの夜間参加で860人はかなり興味を持った人がいたのだと思う。アストロテラスの存在をもっと知らしめてほしい。 ●タイムリーなイベントやコラボイベント等多様な企画が実施されている。 ●今年度は紫金山アトラス彗星など天文に関するニュースやトピックスがあり、事業にも追い風となっただろう。時流をうまく利用して、今後も積極的な事業展開を進めてほしい。 ●特別観望会の実施、オーケストラとプラネタリウムの競演など、多岐にわたる活動を評価する。プラネタリウムの国際会議への貢献も期待する。 ●JAXA講師による講演会とプラネタリウムコンサートが特に高く評価できる。 ●観察会やプラネタリウムを活用して様々なイベントを行い、多くの参加者が得られたことは高く評価できる。 ●アストロテラスの公開やアストロカーによる出張観望会など、より多くの人に星空をみる機会を増やしていることは評価できる。 ●アストロカーによる出張観望会は草の根レベルでの科学普及に大きく貢献していると思われる。普段星空を見る機会の少ない児童保護者が感動していた。来年度、理科研究会の夏季研修会で科学館とコラボできる。 評価：Ａ

＊アストロカー：　当館が所有する移動天文車の愛称。望遠鏡、ディスプレイモニター等を搭載し、市内学校等で観察会を行う。

（３）科学

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○市民の多様な学習ニーズに応える実験教室の開催 ○２１世紀子どもサイエンス事業の推進 ○学校支援	①ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室 ②サイエンス教室（科学分野） ③サイエンスワークショップ（サイエンスショー）を含む ④第19回かわさきサイエンスチャレンジ ⑤科学サポーター研修会 ⑥子ども創意くふう教室 ⑦出前教室 ⑧学校支援　ゆうゆう広場科学実験教室 ⑨学校支援　かわさきGIGAスクール構想	①実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用した出前科学実験教室を科学市民団体との協働にて実施した。40回実施し、計1,384人が利用した。 ②③小学生から大人まで、様々な年代を対象とした科学分野のサイエンス教室を27回開催し384人が参加した。残り3回開催予定。サイエンスワークショップを58回開催し3,803人が参加した。残り5回開催予定。多くの科学講座を市民団体との協働で運営した。 ④「かわさきサイエンスチャレンジ」では、8月3日の1日開催で計440名の小学生と保護者が科学館出展のワークショップに参加した。 ⑤「科学サポーター研修会」は、館内イベントを活用した実践的な研修会を計画し、開催した。令和６年度は研修会から8名の修了生を輩出した。 ⑥「子ども創意くふう教室」では、小中学生を対象とした連続講座として12月から1月にかけて5回シリーズにて開催し、延べ35人が参加した。 ⑦出前教室については、かわさき天文同好会の依頼を受け「科学館とプラネタリウム」というテーマで教室を実施した。32名の参加があった。 ⑧川崎市適応指導教室との連携による科学実験教室を年間24回開催した。 ⑨かわさきGIGAスクール構想での学校支援として、授業活用や科学館利用をねらい、地層観察会の事前事後や地層貸出キット利用時に活用できる教員向けのサイトをGIGA端末上に公開した。 達成度：３	市民協働の教育普及事業を継続できるよう、サポーターの育成に取り組み、より多くの世代の参加を促す必要がある。	●科学講座の参加者が増えているようであるし、研修会の修了生の今後の活躍も期待できる。科学に対して生徒に興味を持たせるのが難しい時代なので科学館の働きかけに期待する。 ●市民団体との協働で多様な事業が推進できている。 ●さまざまな手段を通じて広く教育普及活動を展開している。GIGAスクール構想での学校支援、適応指導教室との連携など、科学館へ来館しない、できない子どもにも科学に触れる機会を与えることのできる取り組みを、さらに充実させていってほしい。 ●参加者やサポーターからのフィードバックを得る方策を構築していってほしい。 ●この分野では特に教育普及活動が重要であると感じる。 ●科学実験教室やサイエンスワークショップを定期的に実施し、たくさんの参加者を得られたたことは高く評価できる。引き続き科学館のリソースを利用できるように施策を進めてもらいたい。 ●実験教室やワークショップを継続的に実施し、多くの参加者を得ていることは評価できる。 ●長期にわたり行っている事業が多く、今後も継続を希望する。ただし、時代の変化に伴うアップデートは常に必要であると感じる。 ●市民団体との協働で、多くの市民が参加できたことは評価できる。 評価：Ａ

（４）出版事業

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
	①青少年科学館「紀要」等出版物の刊行	①川崎市青少年科学館紀要第35号への投稿についてHP等で周知し、投稿原稿を著者と連絡調整しながら内容確認と編集を行い、科学館ホームページに掲載した。 達成度：３	デジタルデータのみの公表となったため、発行の際、市民の活用につながるよう周知する必要がある。	●計画に沿った刊行ができているが、周知方法に課題が残っている。 ●電子データのみでの公開となったとのことだが、その利用状況（アクセス数など）はどのようなものであったか。 ●デジタルならではのコンテンツを作成していくことを考えていってほしい。 ●紀要のさらなる充実に期待する。ただ、デジタルデータであることについては、今後の課題にある一般への周知が重要だと考える。 ●内容確認をどのような手順でしているのか不明だが、校正不備な箇所が見られるため、校正・確認体制を再確認されたい。 評価：Ｂ

５　ネットワーク事業

生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民・利用者にとって魅力的な活動を幅広く展開します。多様な団体や関係機関が、それぞれの専門性や地域性を生かして連携すること

（1）展示・企画

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○展示・企画ネットワーク	①環境局　企画展 ②FIELD MUSEUM展 ③メキシコデー	①川崎市市制100周年記念事業として川崎市環境局地域環境共創課と連携して、川崎市が所蔵している写真や映像などからかわさきの環境歴史を振り返り未来に向けた行動を考えるきっかけを作る企画展「かわさきの環境・100年」を7月27日～8月25日に開催し7190人が来場した。市民が川崎市の環境の歴史を再認識し、環境の大切さを考える契機となった。 ②専修大学ネットワーク情報学部コンテンツデザインプログラムを専攻する学生と協働し、「ＦＩＥＬＤ　ＭＵＳＥＵＭ展：親子で楽しく学べるカガクおもちゃのデザイン展」を開催した。学生主体による13のワークショップを屋内外で展開し、当日は約250名の来館者が参加した。 ③メキシコ大使館と連携し、金星太陽面通過観測150周年を記念するメキシコデーを開催した。メキシコ文化体験ワークショップには3回で90人が参加し、プラネタリウム特別投影には200人が参加した。	連携する中で、SNSを活用し、さらに利用者増となる広報等の周知につながる取組が必要である。	●以前から指摘されているようにSNSをもっと幅広く活用していく取り組みが必要だと考える。内容の充実も必要だが、告知が届かなければ広がりもまた期待できない。人員が足りないのは承知であるが、youtubeやInstagramの活用を望む。 ●企画展「かわさきの環境・100年」では7,000人を超える来場者で環境を考えるきっかけとすることができた。 ●市制100年を契機として実施された企画と判断したが、そのことについて明記し、市制100年にふさわしい事業であったかどうか自己評価してほしい。 ●外部と連携した企画展、メキシコ大使館との連携など、幅広い活動が見られた。 ●「かわさきの環境・100年」は昔の川崎市を知らない人のためにも大きな意味があったのではないか。「メキシコデー」はやや唐突な感があるけれども面白い企画だと思う。 ●多くの参加者が得られたことは評価できる。
		達成度：４		評価：Ａ

（2）調査研究・収集保存

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○収集保存・調査研究ネットワーク	①川崎市域の生物調査	①「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と協働で行ったこれまでの調査の結果をまとめ、「川崎市より初めて記録されたコケシノブ科植物と生育地のシダ植物相」、及び「川崎市生田緑地及びその周辺の鳥類調査」を紀要第35号で公表した。また、昨年度作製したカメムシ目とバッタ目の標本について、同定内容に誤りがないか、相模原市立博物館の昆虫を専門とする学芸員に確認を依頼し、資料の整理を進めた。	他の博物館等と連携し、それぞれが持つ専門性を活かした事業の推進が必要である。	●今後も独自性のある調査を期待する ●他の博物館,団体との連携が進められている。 ●今後も各機関と連携し、事業を進めてほしい。 ●連携先に広がりを持っていってほしい。 ●紀要での公表は大きな意味がある。もちろん査読者を通していないという問題点はあるが、野外調査の報告や分布記録等の発表は早いことも重要なので、紀要での公表は意味があると考える。
		達成度：３		評価：Ｂ

（3）学習支援

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○学習支援ネットワーク	①職場体験・職業インタビューの実施 ②中学校連合文化祭開催への協力 ③教員・職員等研修の受入れ ・教員研修 ・教員社会体験研修 ・博物館実習	①職場体験・職業インタビューでは、市内中学校15校64名を受け入れた。参加した生徒による常設展示のポップ作りなど、来館者へ発信する体験学習に取り組んだ。 ②川崎市中学校連合文化祭理科部門では、今年度の北部会場として協力した。プラネタリウム鑑賞、研究発表・表彰式への協力を行い、当日は114名の生徒・教員が参加した。 ③川崎市総合教育センターとの共催で臨地研修会（41名参加）や横浜国立大学との現職教員ＣＳＴ養成講座（13名）を実施した。 　また、2週間の博物館実習を実施し、7名の大学生を受け入れた。 達成度：３	職場体験での生徒の活動について、より仕事体験としての面を強めていく必要がある。	●生徒、学生、教員の受け入れは大変だと思うが今後も期待する。 ●計画された活動が着実に実施されている。 ●今後もインターンシップ等の事業を通じ、多くの生徒児童の科学に対する興味の涵養に貢献してほしい。 ●着実な活動が見られた。 ●引き続き、当館が職場体験や実習の受け入れ先としての役割を果たしている。 ●地域の学校を中心に多くの学習支援が実施できたことは評価できる。 ●教育現場との連携は大いに評価できる。 評価：Ｂ

（４）地域振興・生田緑地内

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○地域振興ネットワーク ○生田緑地内ネットワーク	①図書館、区役所等との共催事業の実施 ②地域の大学、団体等との共催事業の実施 ③生田緑地ミュージアムの実施 ④日本民家園との「七夕」「お月見」事業の共催等、生田緑地内施設との共催事業の実施 ⑤生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上	①多摩図書館と連携したプラネタリウムでのお話し会を実施し、154人が参加した。多摩区民祭では市民団体による特別投影を実施した。また、宮前市民館及び菅生分館と連携した移動式プラネタリウムを使ったイベントを実施した。 ②川崎天文同好会共催の天文講演会を国立天文台から講師を招いて開催し、29人が参加した。また、溝口の商業施設ノクティを会場とした観望会を1月に実施した。 ③９月にお月見フェスタを実施し、お月見プラネタリウムとして、中秋の名月について子どもから大人まで観覧いただける番組を投影した。 ④日本民家園との連携事業として7月に七夕体験を実施し、科学館ではプラネタリウムでの子ども向け七夕投影、短冊の配布、民家園では飾りつけ体験とミニ笹配布を実施した。また、「お月見」では共同制作による動画の公開、両施設学芸職員による民家園でのお月見トーク、夜間のお月見プラネタリウムを実施した。 ⑤各館の広報担当者による定期的な広報会議において情報共有を図り、当館及び生田緑地全体の魅力向上及び情報発信を行った。 　回遊性向上については、子どもたちの夏休みに合わせ、生田緑地内施設３館、藤子・F・不二雄ミュージアム、多摩区行政サービスコーナーと連携しスタンプラリーを実施した。 達成度：４	緑地内の回遊性や地域の活性化のため、緊密な連携により各々の特徴をより活かした事業の推進が必要である。	●告知をもう少し充実させれば動員は増やせると思う。今後に期待する。 ●緑地内及び周辺施設との活動の連携が図られている。 ●今後も地域のさまざまな事業主体との連携を密にし、科学館らしい事業の展開をしていってほしい。 ●日本民家館や藤子・F・不二雄ミュージアムとの連携など、立地を活かした活動が評価される。 ●前年度に引き続き、多様な交流を行っていることを評価する。藤子・Ｆ・不二雄ミュージアムとの連携は単なるスタンプラリー以外のこともできるのではないかと思う。 ●引き続き地域や緑地内の諸機関との連携をしながら、科学館の魅力を高めていただきたい。 ●今後も、生田緑地内や区施設等との連携を深めて、来場者増加につなげて下さい。 ●地域内の各施設の特性を大いに活かした協働イベントを活発に実施していることは、評価できる。 評価：Ａ

６　管理運営
運営方針

（１）管理運営

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○管理運営計画 ○進行管理	①管理業務 ②危機管理 ③進行管理	①今年度は第３期指定管理の２年目にあたる。管理運営・広報業務の円滑な実施のため、市の管理・学芸部門と連携して業務を運営した。また、緑化フェア開催に際しては緑化フェア推進室等と連携し運営を行った。 ②市職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加し、９月には実際に消火栓を使って水を出す通報・消火訓練、３月に消火・避難訓練を実施した。また、有資格者による消防設備点検のほか、市職員も館内防災点検表により毎月点検・報告を適切に行った。 ③事業計画、中間報告、事業視察、事業報告等のため年４回専門部会を開催し、当館事業の進行管理を適切に行った。また、その際、これまでの指導・助言等を踏まえた上で、資料等において的確に報告・情報提供を行うことで事業報告等を円滑に行った。	開館から12年が経ち、施設の老朽化も目立ちだしている。指定管理者と連携して、修繕等を行っていく必要がある。	●引き続き円滑な管理運営をお願いしたい。 ●今後も適切な館運営に努めてほしい。 ●着実な活動が見られた。 ●緑化フェアの運営に参加できたことは良かった。
		達成度：３		評価：Ｂ

（２）科学館の魅力を高めるサービス展開

第２期運営基本計画	令和６年度主な計画	令和６年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○施設の管理運営	①広報計画 ②魅力を高めるサービス展開 ③多様な利用者への配慮	①教育委員会の紙媒体の学校配布廃止方針に伴い、科学館だよりの学校配布を中止した。今年度の広報については、利用者に分かりやすいホームページを目指し改修を行う予定であり、XやFacebook等による情報発信を積極的に行い、Xのﾌｫﾛﾜｰ数が400増加した。また、イベント等について新聞社等への情報提供を積極的に行った。その他毎月の学芸職員のラジオ番組出演のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの取材に積極的に協力し、幅広く広報活動を行った。 ホームページではコロナ禍に引き続き、家庭でも科学館の魅力に触れてもらえるよう、「おうちで楽しむデジタル科学館」のコンテンツを追加しながら公開している。 昨年度から継続して自然観察テラスに宙と緑の科学館の横断幕やタペストリーを配置し、来園者に科学館の存在をアピールした。夏季には「プラネタリウム冷えてます」の幟を掲げ、プラネタリウムの観覧を促した。 ・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱｸｾｽ数： 458,905件（R5 524,139） ・Xﾌｫﾛﾜｰ数：5,722件（R5 5,322） ・Facebook投稿ﾘｰﾁ数：41,528件（R5 27,221） ※令和5年度は年度末まで令和6年度は2月末までの数字 ※投稿ﾘｰﾁ数：ミニ情報を随時発信するスタイルのため、コンテンツを投稿した時にそのコンテンツを見てくれた人数を指標として採用。 ②利用者からの御意見等に迅速に対応しつつ、適切な案内及び接遇を行うほか、学芸部門の職員によるレファレンス対応など、館全体の魅力向上を図った。 ③バリアフリー関連設備・用具、表示の保全と研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図った。プラネタリウムではヒアリングループ受信機の貸出を行った。 達成度：３	より効果的な方法を模索し、当館の魅力を積極的に発信していく。	●紙媒体の学校配布がなくなったのは残念だと思う。SNSはじぶんで見に行かなくては内容は伝わらない。もう少しインスタグラムやyoutubeなどの利用も考えてはどうか。 ●メディア等で取り上げられる回数が増えたと実感している。広報活動の取り組みを評価したい。今後は認知度向上への戦略策定を期待したい。 ●SNSによる情報発信や広報がよい方向に働いたと思う。科学館の魅力を高める根本は資料・研究・普及に求めるべき、という考えも理解できるが、まずは科学館を多くの市民に知ってもらわなければ活動の枠も狭まるばかりである。今後も信頼度向上、認知度向上に向けて適切な情報発信を続けてほしい。 ●紙媒体の廃止を機に、IT/DXでの広報・サービス展開を活性化したことは評価に値する。 ●個人的には紙媒体の資料が減るのは残念だが、そういう時代でもないので、逆にＳＮＳでの評価や認知度が上がったことは喜ばしい。 ●広報に関しては、多様なソーシャルメディアのチャネルがあるので、発信したりアーカイブする情報の特性に合わせてメディアを選択し、ユーザとのタッチポイントのチャネルを増やすことを検討しても良いと思われる。 ●YouTubeやInstagramなどSNS媒体の増加も検討してほしい。 評価：Ｂ

資料　2

令和６年度第３回　青少年科学館専門部会　委員視察報告

日　時	事業名	受入委員名（対応職員）	委員からの意見、質問・回答	今後に向けて	
				課　題	対　応
12月5日（木）	プラネタリウム　ベビー&キッズアワー	山岡委員、栗芝委員（弘田・清水）	感想：・入場時のＢＧＭに手遊び歌を流すなど、始まる前からワクワク感があり、場所に慣れさせる効果もあってよかった。 ・誘導や発券のスタッフの対応も手馴れていて安心感がある。 ・泣いている子が少なく、皆楽しんでいたようだ。 ・来館者同士であいさつを交わすなど、この投影を目指してきている方も多いようだった。 ・ＢＧＭなど、乳幼児が怖さを払拭できるように工夫されていた。 指摘：・チケットは記念品にする人も多いのではないか。何か工夫があっても良いのでは。	ベビー&キッズについては、投影内容のさらなる充実に加え、受付スタッフ等も含めた適切な対応。	投影内容の工夫に加え、指定管理者と連携した適切な対応を行っていく。
12月5日（木）	プラネタリウム　フュージョン投影	南條委員（弘田・清水）	感想：番組の前に解説の導入があるのは良い。難しいテーマだが、解説が入ることでストーリーに入りやすい。映像にも時間スケールを目盛りで示すなど、分かりやすくする工夫がされていて良かった。 要望：他のプラネタリウム施設を見るとドラマやアニメばかりで映画館のようだ。ここは方向性が違うと思うので、解説を大事にしてほしい。	科学館のプラネタリウム事業のさらなる充実。	生解説と一般番組の自主制作を継続しつつ、フュージョン投影では独自性を活かした演出の番組制作を行う。
12月14日（土）	サイエンス教室「うかせてあそぼう」	眞壁委員（清水・齋藤）	感想：流れが分かりやすく、参加している子たちがよく理解していた。 　今回子どもたちが考えることは主に、ブロアーに「浮く」か「浮かない」、（「飛んでいく」）の分かりやすい選択だったので、どの子も想像しやすく、結果も目に見えて分かるものだったので分かりやすかった。 　子どもたちがブロアーを使う場面では、３カ所に分かれて行ったが、人数もちょうどよかった。これより多いと、待ち時間も長くなってしまいそうだと感じた。 　椅子を斜めにして座っている子が２人ほどいて気になった。 指摘:アシスタントの方が、子どもたちに「どう思う？」とか言いながら肩に手を置くなど、ボディータッチがあったのが気になった。昔であれば気にならないところだが、最近は気にする子もいると思うので気を付けた方がよい。 保護者が付き添っている子たちもいる中で、子どもだけで参加している子がさみしそうだった。そういう子には、アシスタントが積極的に声をかけていくとよいと感じた。 今の小学校高学年（５年生）は入学当初がコロナ禍で友達としゃべらない給食は黙食・前向きだったりしたので、人とのコミュニケーション能力が、１・２年幼い感じがする。そんな子たちが、初対面で子ども同士だけで取り組むのは難しい。だからこそアシスタントの声掛けがあるとよい。	アシスタントや講師の声かけの仕方や子どもとの接し方について、各団体に伝える必要がある	できれば年度頭に、各団体の代表に集まってもらい、その際に伝達するようにしていく。
12月17日（火）	プラネタリウム　学習投影	佐藤委員（弘田・三浦）	感想：学校の風景を投影できるのは、生活体験と学習が結びつくので良い。 一方向的な説明にならないよう発言を促していて、楽しく学習できていたようだ。 今日は天気が良いので、夜の観察にもつながるだろう。 星空調査の結果が展示されていてよかった。川崎でも３等星まで見えるなら、おもな星座は観察できるのだろう。 質問：利用が多い学年は。 回答：理科で星を学習する４，６年生が多いが、幼稚園などの利用も多い。 質問：利用する学校は市内だけか。 回答：近隣の横浜市や町田市など、市外からの利用も多い。 　　県西部からの利用は少ない。（平塚や藤沢を利用するのではないか。）	―	―

日　時	事業名	受入委員名 （対応職員）	委員からの意見、質問・回答	今後に向けて	
				課　題	対　応
12月20日 （金）	地層観察会・収蔵庫見学	間渕委員 （高中・清水）	【地層観察会】 感想：実際に地層など理科に関するものを子どもたちが見る機会があることがとてもよい（社会科見学は多いが理科に関する見学は少ない中で） 川崎の子たちは、科学館に来れば地層やアストロテラスなど天文や自然に関するものを直接見ることができ恵まれている。大切にしていきたい。 意見：地層が削られていたり見づらくなっているところもあるので、全体的に見やすく整備するとよいかも。 回答：整備することで、さらに地層をもっていかれてしまう可能性もあるので難しいところ 【収蔵庫見学】 感想：博物館資料を学芸員１名で整理するのは大変だと感じた。 質問：収蔵庫の博物館資料は展示室の展示品と定期的に入れ換えをしているのか。 回答：科学館の展示室は、太陽光が届くので博物館資料を出すのには適さないため、基本的には展示室には消耗品としての物を出しており、入れ替えは行っていない。年に１回行う企画展の会場となる学習室１は、カーテンを閉じて、空調を２４時間効かせることで環境を整えることができるので、そういう際には収蔵庫の品を出すことができる。	―	―